



昭和電線グループ 2022年3月期 第3四半期

決算補足説明資料 Feb 3, 2022

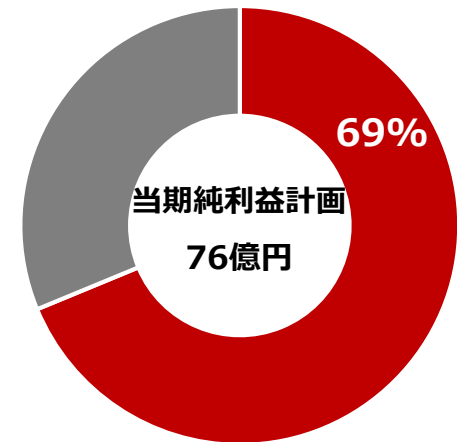
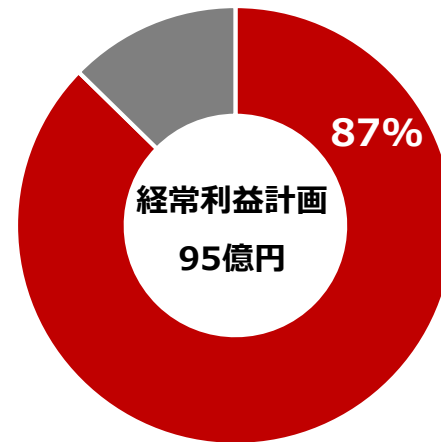
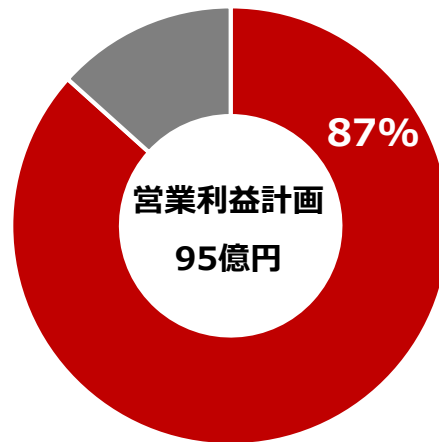
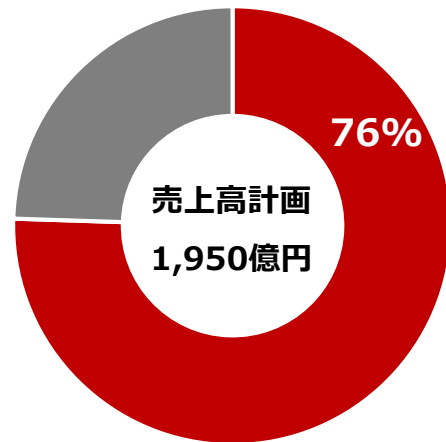
昭和電線ホールディングス（株） 東証一部（5805）

2022年3月期 第3四半期決算総括

業績：原材料価格高騰の影響があったものの前年同期比で増収・増益

- ・エネルギー・インフラ事業：建設関連向けは需要が減少する中で大口案件向け出荷もあり堅調に推移したものの石化製品等の原材料価格高騰の影響が顕在化。電力インフラ向け需要は引き続き旺盛。
- ・通信・産業用デバイス事業：産業用デバイスは前年同期比で需要が回復。通信インフラ向けは5G需要等があったものの、建設関連向けでは需要の減少と原材料価格高騰の影響あり。
- ・電装・コンポーネンツ事業：自動車減産の影響があったものの、前年同期比で自動車および電子部品向け高機能製品の需要は回復。また、銅価上昇の影響もあり。

3Q進捗率（売上高/営業利益/経常利益/四半期純利益）



3Q 連結損益計算書

- 原材料価格高騰や物流価格高騰の影響を受けながらも業績は想定どおりに推移し、前年同期比で増収・増益となった。

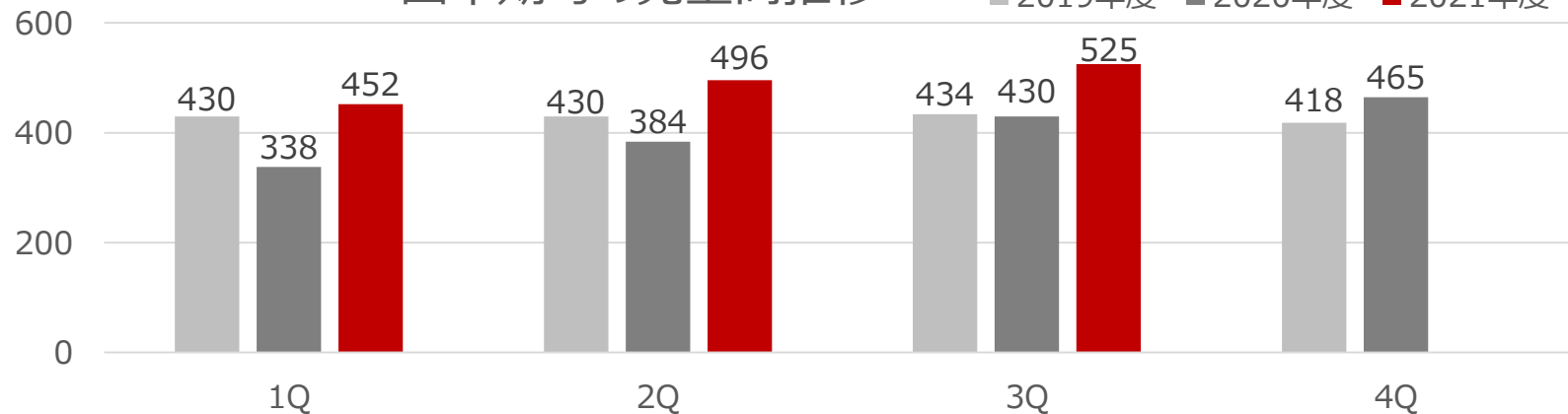
(単位：億円)	2019年度 3Q実績	2020年度 3Q実績	2021年度 3Q実績	構成 %	前年同期比増減率 %
売上高	1,293	1,152	1,472	—	27.8%
売上総利益	179	155	191	13.0%	23.9%
営業利益	68	51	82	5.6%	62.2%
経常利益	63	53	83	5.6%	57.3%
親会社株主に 帰属する 四半期純利益	46	35	52	3.5%	51.1%

四半期業績推移

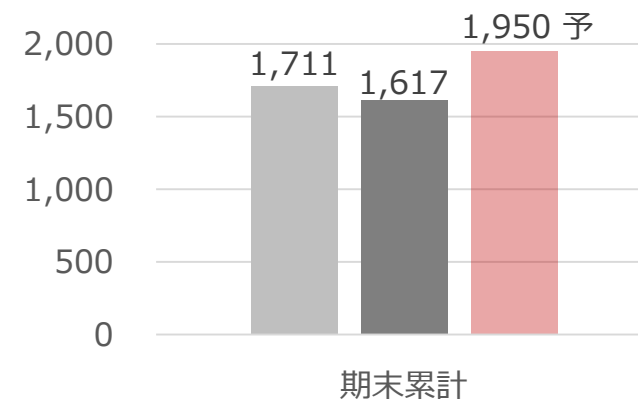
(単位：億円)

四半期毎の売上高推移

■ 2019年度 ■ 2020年度 ■ 2021年度



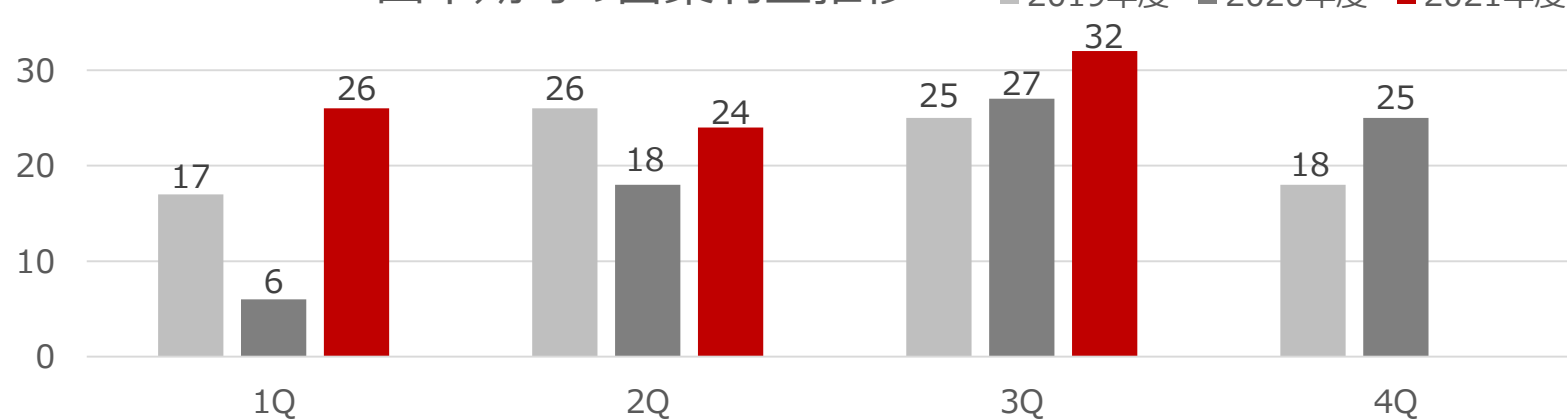
期末累計の売上高推移



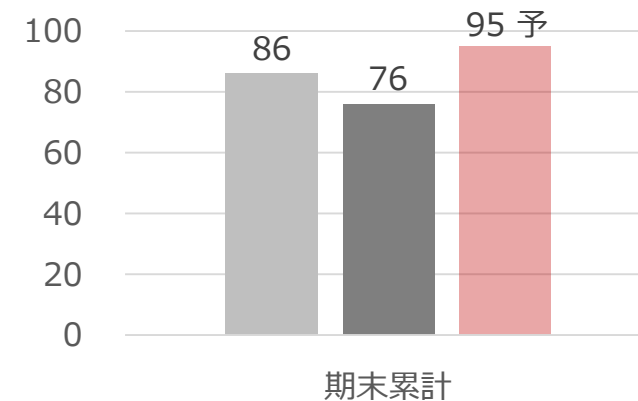
(単位：億円)

四半期毎の営業利益推移

■ 2019年度 ■ 2020年度 ■ 2021年度



期末累計の営業利益推移



セグメント情報（過去3期比較）

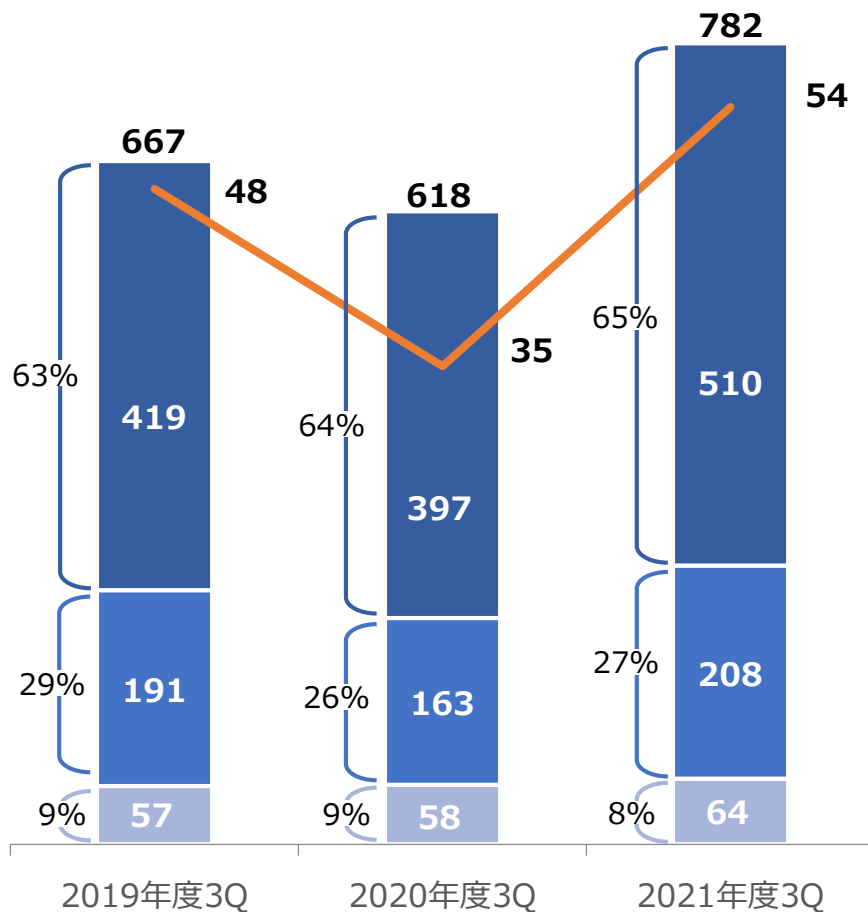
- ・ エネルギー・インフラ事業と電装・コンポーネンツ事業は増収増益、
通信・産業用デバイス事業は増収減益となった。

(単位：億円)	2019年度 3Q実績		2020年度 3Q実績		2021年度 3Q実績	
	売上高	営業利益 (利益率%)	売上高	営業利益 (利益率%)	売上高	営業利益 (利益率%)
エネルギー・インフラ事業	667	48 (7.2%)	618	35 (5.7%)	782	54 (6.9%)
通信・産業用デバイス事業	229	20 (8.6%)	197	15 (7.7%)	220	13 (6.0%)
電装・コンポーネンツ事業	362	3 (0.9%)	304	5 (1.6%)	441	21 (4.7%)
その他 (内 新規事業)	36 (22)	△4 (△1)	33 (23)	△4 (△0)	29 (20)	△6 (△0)
合計	1,293	68 (5.2%)	1,152	51 (4.4%)	1,472	82 (5.6%)

エネルギー・インフラ事業 3Q業績

■ 建設関連 ■ 電力インフラ ■ 免震・その他 ■ 営業利益

(単位：億円)



※2021年度第3四半期実績のみ新会計基準を適用しております

実績

◆ 建設関連 汎用電線	建設関連需要が減少する中で、汎用電線は、大口案件向けの出荷を伸ばしたが、
◆ 免震・その他 免震装置、制振・防振	石化製品等の原材料価格高騰の影響が顕在化した。
◆ 電力インフラ 電力ケーブル、工事、電力機器部品(SICONEX®)	電力強靱化・老朽化更新・再生可能エネルギー連系の需要が引き続き旺盛だった。

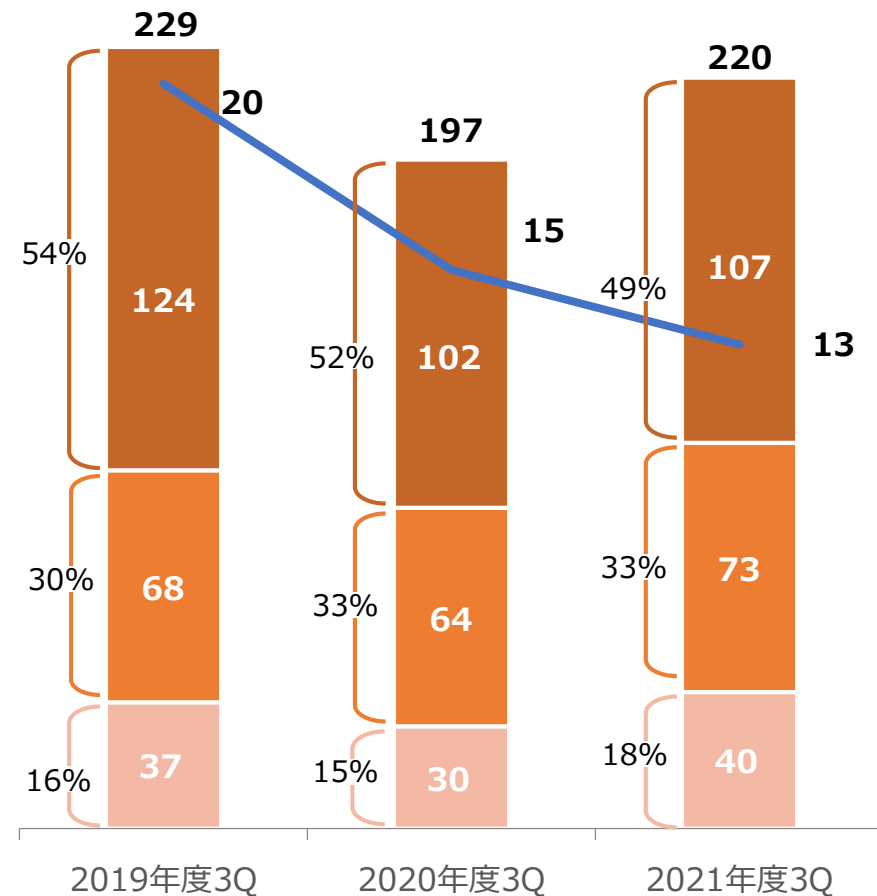
トピックス

12月6日プレスリリース	世界初、民間プラント実系統に三相同軸型超電導ケーブルシステムを導入する実証試験を完了
12月24日プレスリリース	古河電気工業株式会社との共同販売会社への製造事業統合および出資比率変更に関するお知らせ
1月31日プレスリリース	人材教育プログラムへのAVR™技術の導入

通信・産業用デバイス事業 3Q業績

通信ケーブル ワイヤハーネス 精密デバイス 営業利益

(単位：億円)



※2021年度第3四半期実績のみ新会計基準を適用しております

実績

◆通信ケーブル(建設)
メタルケーブル、光ケーブル
LANケーブル

通信インフラの増強等による好要因があるものの、建設関連向けでは需要の減少と原材料価格高騰の影響を受けた。

◆通信ケーブル(通信インフラ)
メタルケーブル、光ケーブル

◆ワイヤハーネス
(家電・産業機器 他)

◆精密デバイス (複写機 他)

前年同四半期対比で需要が回復した。

トピックス

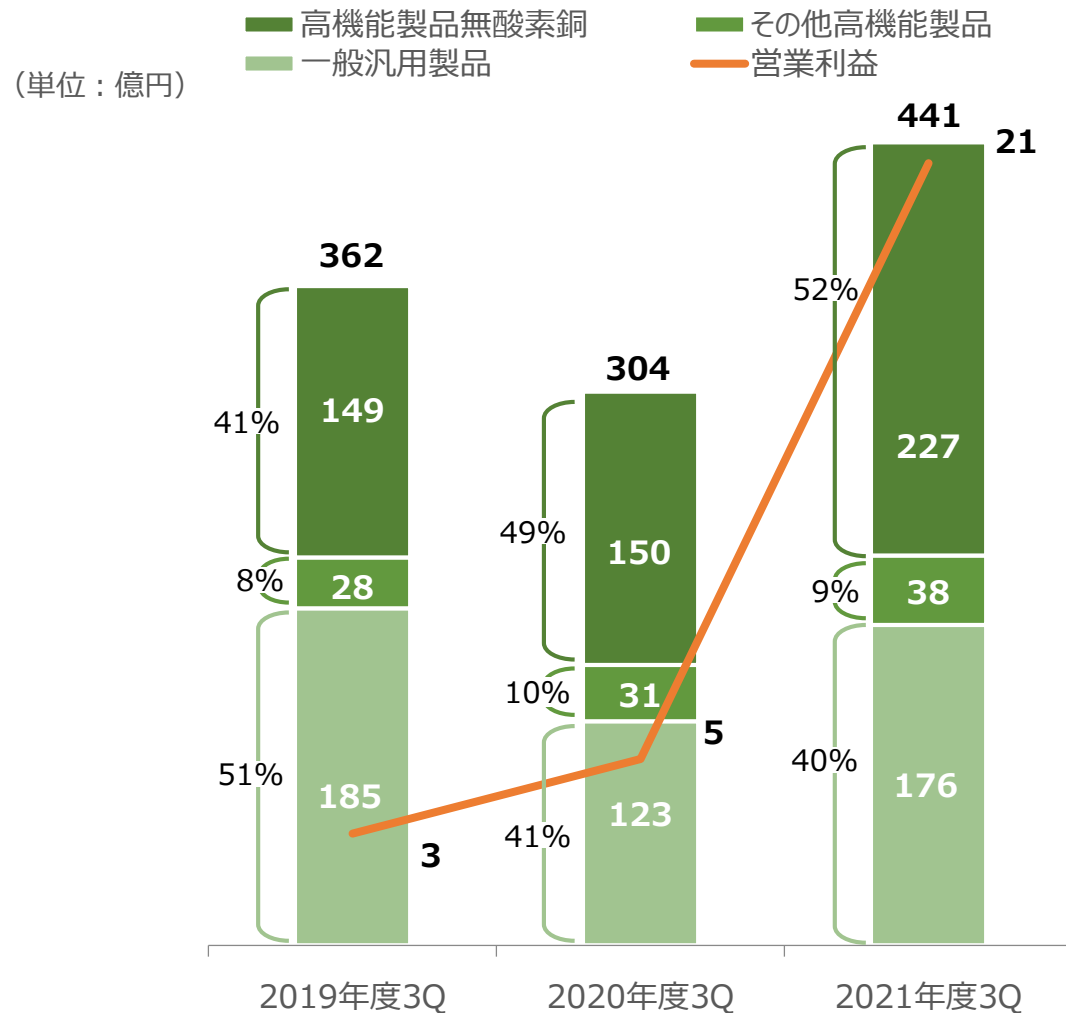
12月20日プレスリリース

嘉興市でワイヤハーネスの新工場が稼働

1月21日プレスリリース

富士電線（株）小勢力回路用耐火ケーブル「EM-JSH®」
業界最速 消防庁告示適合品として認証

電装・コンポーネンツ事業 3Q業績



実績

◆ 高機能製品無酸素銅(自動車、電子機器 他)
無酸素銅MiDIP®

自動車および電子部品向け
高機能製品の需要が回復した。

◆ その他高機能製品(自動車、電子機器 他)
銅合金、高機能巻線

◆ 一般汎用製品(電気機械 他)
汎用巻線

重電向け等の汎用巻線はサブ
ライチェーンの見直しによる国
内需要を取り込んだ。

トピックス

11月8日日刊産業新聞

高機能無酸素銅「MiDIP」26年度
生産能力倍増へ

2022年3月期 期末配当予想の修正(増配)に関するお知らせ

中期経営計画の数値目標（KPI）の前倒し達成に向け、足元の業績等を総合的に勘案した結果、期末配当予想を1株当たり10円増配の50円に修正することといたしました。

この金額は現中期経営計画2022年度の目標額に相当します。

引き続き、収益力を高め、財務体質の改善を図り、安定継続した配当に努めてまいります。

	年間配当金			配当性向
	第2四半期末	期末	合計	
前回発表予想	—	40.00円	40.00円	16%
今回発表予想		50.00円	50.00円	20%
当期実績	0.00円	—	—	—
(ご参考)前期の 1株当たり配当金実績	0.00円	20.00円	20.00円	12%

貸借対照表（前期末比較）

・自己資本比率は35.8%となった。

（単位：億円）

	21/3/31	21/12/31	増減
現金・預金	42	49	+7
受取手形・売掛金及び契約資産	439	550	+112
棚卸資産	215	252	+37
その他	57	63	+5
流動資産 計	753	914	+161
有形固定資産	397	416	+19
無形固定資産	14	12	△1
投資その他の資産	131	138	+6
固定資産 計	542	566	+24
資産 合計	1,295	1,480	+186

	21/3/31	21/12/31	増減
支払手形・買掛金	224	275	+51
短期借入金・社債	247	305	+58
その他	159	171	+12
流動負債 計	629	751	+121
長期借入金・社債	121	132	+11
その他	63	62	△1
固定負債 計	184	193	+10
負債 合計	813	944	+131
資本金	242	242	0
資本剰余金	57	57	+0
利益剰余金	106	153	+47
その他	77	84	+7
純資産 合計	482	536	+54
負債・純資産 合計	1,295	1,480	+186



本説明資料に記載されている将来の業績予測値は、公表時点で入手可能な情報に基づいており、潜在的なリスクや不確定要素を含んでおります。

このため、実際の業績は、さまざまな要素により、記載された予測値と大きく異なる結果となり得ることをご承知おき下さい。

実際の業績に影響を与えうる要素としては、経済情勢、需要動向、原材料価格・為替の変動などが含まれます。
なお、業績等に影響を与えうる要素は、これらに限定されるものではありません。

お問合せ先

昭和電線ホールディングス（株）

経営戦略企画部 戦略課

TEL：044-223-0520

E-mail：kouho@hd.swcc.co.jp

昭和電線ホールディングス（株） 東証一部（5805）